

体育学研究科【教育課程の編成・実施方針】

総合科学としての体育学の特徴をふまえ、その教育システムとして体育学研究科は 5 つの学系を設けている。学生はいずれかの学系に所属する。各学系の特色は次のとおりである。

【スポーツ文化・社会科学系】

スポーツを幅広い問題意識のなかで捉え、科学的方法論に即してこれに分析・検討を加える学系である。思想・文化・歴史・社会・教育・政治・法律・経営・経済・産業など、文化事象として、社会現象として、また制度として認識されるスポーツを広く研究の対象とする。

【スポーツ認知・行動科学系】

スポーツにおける心理的問題の解決を基本課題とする学系である。従来の心理学的方法とスポーツ科学の方法との統合を目指しながら、スポーツ行動に関する認知的問題、メンタルトレーニングの問題、計量的問題、臨床心理的問題、発達と加齢の問題などについての教育・研究を進める。

【スポーツ生理学系】

運動によって起こる身体の変化と、運動を可能にする身体の仕組みを、形態・生理・生化学的に幅広く研究する学系である。このような研究から、身体運動を通じて達成される体力の強化、活動力の向上、健康の増進、疾病の予防や老化の防止、疾病の治療の基礎になる資料などを得ることを目的とする。

【健康科学系】

人の健康は、遺伝・環境・行動の諸要因の複雑な関連の上に成り立っている。これら諸要因と健康との関連を、傷病の予防および健康の維持・増進の観点から研究する学系である。主な課題は、健康の維持・増進と運動、スポーツ障害の予防、傷病からのスポーツ復帰、保健行動、様々な社会要因と健康の関連などである。

【応用スポーツ科学系】

研究の中核にバイオメカニクスをおき、その他の多くの科学、たとえば生理学、心理学、教育学などの研究方法も取り入れ、学際研究的な科学を目指す学系である。これらの研究結果を新しいトレーニング法、コーチング法に応用するための研究を進める。

教育研究上の目的および学位授与の方針に基づき、本研究科は 5 学系を基盤とする以下に示すような教育課程を編成し実施していくこととする。

各学系別に講義および演習を配置する。それに加えて学系に共通の科目として、「スポーツ科学研究法Ⅰ」「スポーツ科学研究法Ⅱ」「スポーツ科学研究法Ⅲ」をおき、それぞれ統計学、コンピュータ・リテラシー、科学英作文を主体として、講義 2 単位、演習 2 単位の計 4 単位科目とする。博士前期課程の目標は研究者の養成ばかりではなく高度の専門性を備えた職業人の養成にも置いているので、できるかぎり多彩な科目を用意することを心掛けている。複数教員が参加し集団指導にあたる各学系の「セミナー」、および個人指導を中心にした「研究指導」各 4 単位の計 8 単位を必修とし、学生が所属する学系以外の授業 10 単位以上を含む 30 単位以上の履修を必要とする。

また、博士後期課程の目標は主として自立した研究者を養成することにあるので、教育の中心は複数教員が参加し集団指導にあたる各学系の「セミナー」、および個人指導を中心にした「研究指導」に置かれている。セミナーと研究指導各 6 単位の計 12 単位を必修とし、この他に各学系の「特殊研究」4 単位を含み 8 単位を加えた 20 単位以上の履修を必要条件とする。

研究科全体のカリキュラムの一つの特徴は、総合大学である利点を活用し、本学にある他の研究科との単位互換制度を取り入れていることである。この制度を利用することにより、例えばスポーツ文化・社会科学系と社会学研究科・経営学研究科、スポーツ認知・行動科学系あるいは健康科学系と心理学研究科、スポーツ生理学系あるいは応用スポーツ科学系と情報科学研究科など、様々な組み合わせ履修を可能としている。